



若手研だより

高岡市教育センター
令和5年12月15日

「若手教員研修会」は、4・5年次の教員65名が参加し、全5回実施しました。子供理解、危機管理、学習指導等、様々なテーマを設定し、若手教員の資質や実践的指導力の向上を目指しました。全5回の研修の様子をまとめて紹介します。



◇第1回 5月23日(火) 伏木コミュニティセンター

指導講話「児童・生徒の理解、学級経営において大切だと思うこと」

講師：高岡市立福岡中学校 校長 寺田 恵 先生



開講式に続き、福岡中学校 寺田 恵校長先生から、ご講演いただきました。寺田校長先生が経験された具体的な場面を紹介していただき、児童生徒との向き合い方や、教師自身が人間力を高めることの大切さ等について、分かりやすくお話しいただきました。

【感想より】

- ・寺田校長先生の講演を聞いて、教員として働くということは、人との関わりであると改めて感じました。人間性を高めるということは、自分にとって難しいと感じたが、寺田校長先生の子供に対する熱意や、事前にたくさんのことを予想して準備する姿勢を知り、私も同僚や先輩方・教職員のみなさんと関わり相談するなどして努力していきたいと思いました。また、子供に対しての関わり方にとっても愛を感じました。小さな関わりを積み重ね、目の前の子供を一人の大切な人として接することが大切だと学びました。
- ・「布石を打つ」という言葉が印象に残りました。日頃から子供たちに積極的に声をかけ、些細な会話を重ねていくことで、万が一のときにも子供が話しやすい関係性を築くことができるのだと学ぶことができました。子供の様子をよく観察し変化を敏感に感じ取れる教師でありたいです。



◇第2回 7月27日(木) 伏木コミュニティセンター

講演「教育のこれまでと『これから』 - 今、教師に求められていること -」

講師：富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 林 誠一 先生



富山大学大学院教職実践開発研究科の林 誠一 教授をお招きし、ご講演いただきました。これからの子供や教師に求められている資質・能力とは何かについて、グループ協議や演習を通して、真剣に考え、学び合う受講者の姿が印象的でした。今後の授業づくりについて、若手教員に新たな視点を与えていただきました。

【感想より】

- ・「若手が活躍する学校、若手が挑戦する学校がいい学校」という林先生の言葉が強く響きました。昔から続く学校業務に疑問の意識をもち、より子供たちと接する時間を確保できる工夫を若手も考え、提案していくことが「時代に合わせて変容する」ということだと考えました。
- ・学習指導要領の中には、今の教育の課題や子供たちに付けさせたい資質・能力や私たち教師に求められているものなど、教育の現場で意識していかないといけないことがたくさんあると感じました。中でも読解力については、自分も日々の指導で課題に感じていたところだったので、今後さらに工夫していきたいと思いました。



◇第3回 8月10日(木) 伏木コミュニティセンター

指導講話「危機管理について」

講師：高岡市立博労小学校 教頭 岩崎 泰明 先生



危機管理をテーマに、博労小学校 岩崎 泰明教頭先生から、ご指導いただきました。危機の未然防止、発生時の適切な対応等、具体的な事例について、グループ協議を交えながら、「自分だったらどのように対応するか」を考えました。若手教員にとって、学校組織の一員としての役割を考える貴重な機会となりました。

【感想より】

- ・命の大切さや安全安心な学校となるために、教師が意識していくことはもちろん、子供たちに自分事として考えさせる手立てが大切であると学びました。講演では、「とにかく報告・連絡・相談をすること」「当たり前を大切にすること」「自分を大切にすること」という言葉が印象に残ったので、自分自身も意識して行動していきたいです。
- ・学校の危機管理については、火災や地震等の災害のことばかりを考えていましたが、情報漏洩や安全教育等のことも含まれ、それらのことについてもより一層気を付けていかなければいけないと感じました。自分一人で考えたり、判断したりせずに、周りの管理職や先生に報告・連絡・相談しながら、今後も子供たちが安心・安全に学校生活を過ごすことができるよう心掛けていきたいです。



◇第4回 A班 9月26日(火) 高岡市立五位小学校

若手研究授業(小学校・道徳科)

主 題 名 : 「相手の立場に立った言動」

[B-(7)親切、思いやり]

教 材 名 : 「ちゃんとやれよ、健太」

(出典：廣済堂あかつき「小学生の道徳 5」)

授 業 者 : 高岡市立五位小学校 教諭 杉高 正紀

指導助言者：高岡市立西条小学校 教頭 角 恵美 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



第4回研修では、若手教員の代表者が道徳科の授業を提案し、それを基に授業研究をしました。受講者は、それぞれ、自分だったらどのような中心発問をするかを考えた上で、研修に臨みました。A班は、五位小学校の杉高教諭が、「親切、思いやり」について考える授業を提案しました。考えを可視化する「カラーカード」の活用や板書の工夫に加え、実際にメール文を作成する表現活動を取り入れるなど、ねらいに迫るための手立てが工夫されていました。指導助言では、様々な視点で多面的・多角的に考えることや系統的に学ぶことの大切さについて、具体的な場面を基に分かりやすく教えていただきました。

【感想より】

- ・事前に自分だったらどのような発問、授業づくりをするか考えたときには思いつかなかった授業づくりの工夫があり、とても勉強になりました。「中心発問は何にするのか」「誰の視点で進めるのか」「どんなツールを使うのか」など、その教材のよさを生かして子供の実態に合わせた授業づくりをすることが大切だと分かりました。
- ・ICT 機器の有効な活用やカラーカードで自分の気持ちを可視化する手立て、子供に対しての適切な声掛け等、学ぶことが大変多くありました。実際にメールを作成することで、相手の立場に寄り添って考えることができ、ねらいに迫ることができたと思います。



◇第4回 B班 9月27日(水) 高岡市立福岡中学校

若手研究授業(中学校・道徳科)

主 題 名 : 「いのちを考える」 [D - (19) 生命の尊さ]

教 材 名 : 「三つのいのちについて考える」

(出典: 東京書籍「新しい道徳2」)

授 業 者 : 高岡市立福岡中学校 教諭 藤長 成美

指導助言者: 高岡市立五位中学校 教頭 宮森 学 先生

アドバイザー: 高岡市教科指導員



B班では、福岡中学校の藤長教諭が「生命の尊さ」についての授業を提案しました。少人数での意見交換、生徒の実態を考慮した教師の語りかけや問い返しなどの工夫により、自分の思いを伝え合う生徒の姿が見られました。協議会では、「ねらいに迫るための手立て」や「考えを深めるための関わり合い」等について、A班と同様に、様々な視点から意見が出されました。指導助言では、動機付けにつながる導入の工夫、道徳的価値を多面的・多角的に分析する手立て、評価の在り方など、道徳の授業を行う上で大切なことを教えていただきました。

【感想より】

- ・ペアで意見交換をする場面では、意見交換の進め方などを示したカードが用意されていたり、生徒に考えを書かせるためのカードを葉の形にしたりと、生徒の視点に立った細やかな工夫がいくつも取り入れられていて、とても良かったです。今後の授業に活かしたい点をたくさん学ばせていただきました。
- ・今回の授業を作るための丁寧な準備、生徒への細やかな手立て、大変参考になりました。自分は道徳の授業をずっと苦手感じていましたが、まず、教材研究にもっと時間をかけるべきだと気づきました。



◇第5回 A班 11月14日(火) 高岡市立五位小学校



示範授業(小学校・道徳科)

主 題 名 「友達を信頼する」 [B - (10) 友情、信頼]

教 材 名 : 「ロレンソの友達」

(出典: 廣済堂あかつき「小学生の道徳6」)

授 業 者 : 高岡市立五位小学校 教諭 山田 亜矢 先生

アドバイザー: 高岡市教科指導員



第4回・第5回の授業参観を通じた研修では、「子供の姿を根拠に語り合う」ために、全員が詳細に授業記録をとり、それを基に事後研修を行いました。第5回A班では、五位小学校の山田 亜矢先生による示範授業を参観させていただきました。「友達を信頼する」とは、どのような思いなのかを、自分の経験と重ね、多様な視点から考える子供の姿が印象的でした。事後の協議会では、ねらいに迫るための問い返しなど、山田先生の授業から学んだことについて、様々な意見を出し合いました。道徳科の授業について悩む若手教員たちからの質問に、山田先生は、振り返りの方法や考えの関わらせ方等、ご自身が実践しておられる手立てを、具体的に教えてくださいました。

【感想より】

- ・問い返しが印象的でした。子供たちが自分事として考えられるよう、様々な言葉で揺さぶりをかけておられたのが大変勉強になりました。問い返しをして子供の心の内面を引き出すこと、子供の表情や反応を観察して意見をつなげることを意識して、今後の指導に生かしたいです。
- ・子供たちが互いの意見をよく聞いて、「自分だったら」と真剣に話し合っている姿が印象的でした。道徳の授業で教師が話すぎてしまうことを自分の課題と感じていますが、山田先生がされていたように、子供同士で考えをつなぎながら話し合いを深めていけばよいのだと学ばせていただきました。



◇第5回 B班 11月15日(水) 高岡市立中田中学校

示範授業(中学校・道徳科)

主 題 名:「見方を変えれば」[A-(3) 向上心、個性の伸長]

教 材 名:「ぼくにもこんな『よいところ』がある」

(出典:東京書籍「新しい道徳3」)

授 業 者:高岡市立中田中学校 教諭 豊本 奈穂 先生

アドバイザー:高岡市教科指導員



第5回B班では、中田中学校の豊本 奈穂先生の示範授業を参観させていただきました。「自分のよさ」を見つめようとする登場人物に自分を重ね、切々と考えを語る生徒の様子が多く見られました。豊本先生は、生徒の実態を考慮し、機を捉えてグループによる対話を取り入れたり、学習専用端末を活用した振り返りを行ったりするなど、生徒が積極的に自分の思いを表現することができるよう工夫されていました。

第5回研修会では、Microsoft 365 のアプリである「ホワイトボード」を活用した事後研修を取り入れました。ICTを活用したことで、それぞれの考えを瞬時に共有することができ、受講者は、様々な視点で意見交換を行うことができました。また、第4回・5回研修では、高岡市教科指導員の先生方に、アドバイザーとしてグループ協議や全体協議に参加いただき、受講者からの質問に答えたり、受講者の考えを価値付けしたりするなど、ご指導いただきました。

【感想より】

- ・生徒の様子や豊本先生と生徒のやりとりをみていると、日頃からの信頼関係や、先生や学級に対して安心感があるのを肌で感じることができました。また、すっきりとした発問と板書、端末を利用した授業の在り方についても大変勉強になりました。道徳だけでなくいろいろな場面で、活用したい教材等がありました。私も先生のように、教材を工夫し、生徒の実態に応じた指導をできるように、これからも研究・修養していきたいと思います。
- ・小学校からの継続した振り返りの仕方を継続されているという話を聞き、小中連携のあるべき姿だと感じました。アンケートの活用や分かりやすい板書、吟味された発問や生徒の実態に合わせた言葉の選定など、多くのことを学ばせていただきました。小学校でも活用できそうなことがたくさんあったので、これからの指導にぜひ生かしたいと思っています。



今年度の「若手教員研修会」を終えて

今年度は、3年ぶりに全ての研修を対面形式で行うことができました。

若手教員を取り巻く環境の変化を鑑み、今年度は、「危機管理研修」や「ICTを活用した協議会」を新たに取り入れました。どのように危機管理に向き合うか、

ICTの可能性をどのように生かしていくかなど、若手教員だからこそその発想で、考えやアイデアを出し合う姿に頼もしさを感じました。一方「教員のやりがいや責任感」「授業づくり」等、これまで大切に続けてきたテーマにも取り組みました。本研修での学びを教育現場での実践に生かしてもらえたらと、願っております。

これからも「不易と流行」を大切に、若手教員の資質・能力を高めるための研修内容を吟味・工夫していきたいと思います。

若手教員研修会を進めるにあたり、講師や指導助言者、示範授業者、アドバイザーとしてご指導くださった皆様、会場を提供してくださった学校、そして若手教員を研修に送り出してくださった勤務校の皆様に感謝申し上げます。

